

1.5 1のn乗根の図示

問題

42 $z^3 = 1$ をみたすすべての複素数 z を極形式によって表し、それらを複素数平面に図示せよ。(滋賀大)

43 複素数 z は5次方程式 $z^5 = 1$ の解で、 $z \neq 1$ であるものとする。このとき、 z は4次方程式 を満たし、この方程式を z^2 で割ると、 $w = z + \frac{1}{z}$ の値は2次方程式 を満たす。したがって、 $z + \frac{1}{z}$ の値は または と求まる。

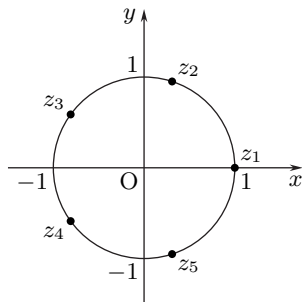
方程式 $z^5 = 1$ の解 z_1, z_2, \dots, z_5 が複素数平面上で図の位置にあるとすると

$$z_2 = \overline{z_5}, \quad z_2 z_5 = 1$$

が成り立つので

$$\cos \frac{2}{5}\pi = \frac{1}{2}(z_2 + z_5) = \text{$$

となり、これを使うと、単位円に内接する正5角形の一辺の長さが と求まる。解 z_2 の実部は 、虚部は となる。



(九州工業大)

チェック・チェック

42 3 次方程式 $z^3 = 1$ の解は 3 個あり、その解の求め方は、次の 2 つの方法があります。

- (i) 因数分解して、直接解く。
- (ii) z^3 を極形式で表し、1 の絶対値 1、偏角 $2n\pi$ (n は整数) と比較する。

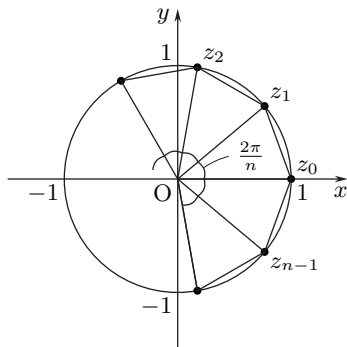
43 $z^5 - 1 = (z - 1)(z^4 + z^3 + z^2 + z + 1)$

を利用すると、 z についての 4 次方程式が得られます。

一般に、 $z^n = 1$ をみたす複素数 z を 1 の n 乗根といい、1 の n 乗根は n 個あり

$$z_k = \cos \frac{2k\pi}{n} + i \sin \frac{2k\pi}{n} \quad (k = 0, 1, 2, \dots, n-1)$$

と表すことができます。これを複素数平面上で図示すると、 $z_0, z_1, z_2, \dots, z_{n-1}$ は点 1 が分点の 1 つとなるように、単位円を n 等分した n 個の点となります。



解答・解説

$$42 \quad z^3 - 1 = 0 \text{ を解くと}$$

$$(z-1)(z^2 + z + 1) = 0$$

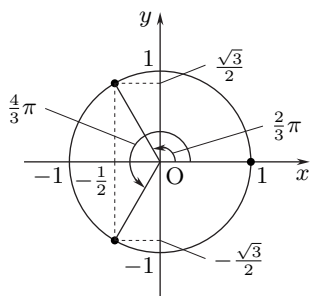
$$\therefore z = 1, \frac{-1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

極形式で表すと

$$z = 1 = \cos 0 + i \sin 0$$

$$z = \frac{-1 + \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi$$

$$z = \frac{-1 - \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi$$



これらを複素数平面に図示すると 上図の黒丸 になる。

別解 $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと

$$z^3 = r^3(\cos 3\theta + i \sin 3\theta)$$

また

$$1 = \cos 2n\pi + i \sin 2n\pi \quad (n \text{ は整数})$$

だから、 $z^3 = 1$ のとき

$$r^3 = 1 \quad \text{かつ} \quad 3\theta = 2n\pi \quad \therefore r = 1 \quad \text{かつ} \quad \theta = \frac{2}{3}n\pi$$

$0 \leq \frac{2}{3}n\pi < 2\pi$ のとき、 $n = 0, 1, 2$ だから、 z を極形式で表すと

$$z = \cos 0 + i \sin 0, \cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi, \cos \frac{4}{3}\pi + i \sin \frac{4}{3}\pi$$

43 $z^5 = 1$ より

$$z^5 - 1 = 0$$

$$\therefore (z-1)(z^4 + z^3 + z^2 + z + 1) = 0$$

$z \neq 1$ より、 z は 4 次方程式

$$\underline{z^4 + z^3 + z^2 + z + 1 = 0}$$

をみます。 $z = 0$ は上式をみたさないから、両辺を z^2 でわると

$$z^2 + z + 1 + \frac{1}{z} + \frac{1}{z^2} = 0$$

$$\therefore \left(z + \frac{1}{z}\right)^2 - 2 \cdot z \cdot \frac{1}{z} + \left(z + \frac{1}{z}\right) + 1 = 0$$

よって、 $w = z + \frac{1}{z}$ は、2 次方程式

$$\underline{w^2 + w - 1 = 0}$$

をみます。これを解くと

$$w = z + \frac{1}{z} = \frac{-1 - \sqrt{5}}{2} \quad \text{または} \quad \frac{-1 + \sqrt{5}}{2} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

ここで、 $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$ とおくと

$$z^5 = r^5 (\cos 5\theta + i \sin 5\theta)$$

また

$$1 = \cos 2n\pi + i \sin 2n\pi \quad (n \text{ は整数})$$

だから、 $z^5 = 1$ のとき

$$r^5 = 1 \quad \text{かつ} \quad 5\theta = 2n\pi \quad \therefore \quad r = 1 \quad \text{かつ} \quad \theta = \frac{2}{5}n\pi$$

$0 \leq \frac{2}{5}n\pi < 2\pi$ のとき、 $n = 0, 1, 2, 3, 4$ である。このとき、下図のように

z_1, z_2, \dots, z_5 をとると

$$z_k = \cos \left\{ (k-1) \cdot \frac{2}{5}\pi \right\} + i \sin \left\{ (k-1) \cdot \frac{2}{5}\pi \right\} \quad (k = 1, 2, 3, 4, 5)$$

である。 $\cos \frac{2}{5}\pi$ は z_2 の実部だから

$$\begin{aligned} \cos \frac{2}{5}\pi &= \frac{z_2 + \overline{z_2}}{2} = \frac{1}{2}(z_2 + z_5) \quad (\because z_2 = \overline{z_5}) \\ &= \frac{1}{2} \left(z_2 + \frac{1}{z_2} \right) \quad (\because z_2 z_5 = 1) \\ &= \frac{1}{2} \cdot \frac{-1 + \sqrt{5}}{2} \quad (\because \textcircled{1}, \cos \frac{2}{5}\pi > 0) \\ &= \frac{\sqrt{5} - 1}{4} \end{aligned}$$

よって、単位円に内接する正 5 角形の一辺の長さを l とすると

$$\begin{aligned} l^2 &= |z_2 - z_1|^2 = (z_2 - 1)(\overline{z_2} - 1) \\ &= |z_2|^2 - (z_2 + \overline{z_2}) + 1 \\ &= 1^2 - \frac{\sqrt{5} - 1}{2} + 1 = \frac{5 - \sqrt{5}}{2} \end{aligned}$$

$$\therefore l = \sqrt{\frac{5 - \sqrt{5}}{2}}$$

また

$$(z_2 \text{ の実部}) = \cos \frac{2}{5}\pi = \frac{\sqrt{5} - 1}{4}$$

$$\therefore (z_2 \text{ の虚部}) = \sqrt{1^2 - (z_2 \text{ の実部})^2} = \sqrt{1 - \frac{6 - 2\sqrt{5}}{16}} = \frac{\sqrt{10 + 2\sqrt{5}}}{4}$$

